

# CAGLIERO

カリエロ11 サレジオ会  
宣教ニュース

N.140 - 2020年8月



サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信

## 希望のまなざし

### 私

私たちは旅行やコミュニケーションの壁がほとんど取り払われた世界に暮らしています。ソーシャル・メディアは本物の地球村を生み出し、互いにつながるためにもはや物理的な距離は妨げになりません。しかしまた、いくつかの新たな危機が私たち人間の弱さをより意識させるようになっていきます。科学とテクノロジーの力だけであらゆる悪を乗り越えられると信じる根強い異教的なものの考え方が社会に広がっています。神は余計な存在です。一方、大衆に迎合する政治家が、経済的不況によって沸き上がる不満に乗り、自分たちが不振にあえいでいることを移民やグローバル化経済のせいにしていきます。実に今日、多くの人々が失望し、途方に暮れ、疲れ切っています。希望が消えていくのを感じています。そして希望の無い人にとって人生は、意味の無い、耐えがたいものになります。

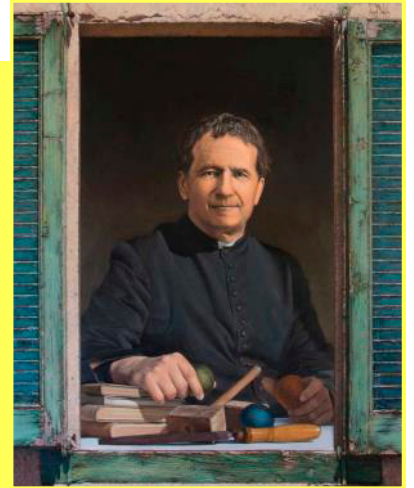
同様に、社会や政治の状況、教会のリーダーや自分たち自身に幻滅した信者は、狭い視野、「墓場の心理」に陥り、それは、「日常生活における灰色の実用主義」、落胆、内面の疲労（『福音の喜び』83）となって表れます。これらは、信仰を生き抜き、福音を分かち合おうとするあらゆる情熱を、しだいに奪い取っていきます。

ドン・ボスコは数々の逆境に直面しましたが、希望の窓を閉じることは決してありませんでした！ 今日、宣教の精神を生きるということは、私たちの希望の窓を、常に大きく開け放つことです。実に、たとえこの時代の逆風のただ中にあっても、希望のまなざしを持つ人だけが、今日、周りにあふれる希望のしるしを見ることができます：他者に仕えようとする多くの若者の開かれた心；連帯と人間の尊厳を促進する取り組み；家庭や職場の日常生活の中に隠れながら、実に多くの人々が生きている真の聖性などです。生き方をもって福音をあかしする喜びを支えるのは、キリストへの信仰による希望です。私たちの希望が奪われることはありませんように！ 実に、私たちは希望を運ぶ者です、なぜなら神の霊が地のおもてを新たにしてくれておられると私たちは信じるからです：「見よ、私は万物を新しくする」（黙示録21・5）。

### 振り返りのために

私は希望のまなざしをもっているだろうか？  
私たちの周りで見られる希望のしるしは？

宣教顧問  
アルフレド・マラヴィジャ神父



### サ

レジオ会は世界**134**か国にあります：アフリカ：43か国；アメリカ大陸：24か国；アジア：29か国；ヨーロッパ：32か国；オセアニア：6か国（2020年現在）。この20年、サレジオ会は**毎年**平均30名の宣教師を派遣してきました。

**それぞれの宗教的背景。**さまざまな宗教があること、また文化の多様性の現象は地理的範囲に限定されず、しだいに横断的になっています。

**(a) イスラムの背景 (26)：**イスラム教徒が多数派を占める国では、私たちのカリスマは福音的あかし、諸宗教対話を生きるものとして若者に仕えています：これは特に中東管区MORの国々の現実です。アラブ-イスラムの背景としては、シリア、パレスチナ、エジプト；ユダヤ-イスラムの背景があるのは、レバノン、イスラエルです。そのいずれも、第一次福音宣教を行う場であるという特徴があります。クウェートとアラブ首長国連邦の新たな拠点もここに追加することができます；また北アフリカの国々：モロッコとチュニジアもここに入ります。アジアという背景で非常に異なる特徴を見せるのは、アゼルバイジャン、バングラデシュ、インドネシア、マレーシア、パキスタン、トルコの活動です。ヨーロッパでは：アルバニア、コンゴ、ボスニア・ヘルツェゴヴィナ。サハラ以南のアフリカでは：ブルキナファソ、チャド、ガンビア、ギネア・コナクリ、マリ、セネガル、シエラレオネ、スーダンです。

**(b) 仏教の背景 (11)：**カンボジア、中国、韓国、日本（仏教・神道）、モンゴル、ミャンマー、ネパール、スリランカ、タイ、台湾、ベトナム。

**(c) 正教会の背景 (11)：**ペラルーシ、ブルガリア、ジョージア、エチオピア、エリトリア、モルドバ、モンテネグロ、ルーマニア、ロシア、セルビア、ウクライナ。

サレジオ会の今日の宣教活動

## 若者が希望を取り戻すために働く宣教師

**私**の宣教師の召命は少し変わっています。私は自分のサレジオ管区 (AFC) の外で働くことに消極的でした。しかし、2012年から2014年にかけて実地課程のためサレジオ会員として南スーダンで働いたとき、自分が満たされるのを感じました。宣教師の心を鼓舞される特別な体験でした。

そのため、2018年に司祭に叙階された後、ウガンダ北部のバラベク難民キャンプの最も貧しい若者に仕える会員を求めるとの呼びかけ (管区長の提案を通して) に応えることに、迷いはありませんでした。私は南スーダンの体験の自然な延長としてこの任命を受けとめました。バラベクの難民は、主に南スーダンから来た人々だからです。

バラベクで働く宣教師には数多くの挑戦があります。若者たちは実際、あらゆるものに欠けています：教育、保健、霊的な世



話、食糧……しかし、あごにアッパーをくろうような挑戦を感じるは、あらゆる希望、人生の意味を失くした人たちを前にしているのだと気づくときです。

私の最高の喜び、バラベクの若者たちの中にあつて最大の成果だと感じるの、若者たちに笑顔が戻るときです。ドン・ボスコは、絶望した人間、神の愛する子らの顔に笑顔を取り戻させてくれました。

宣教師の召命へのあの特別な招きを感じ心が燃えているサレジオ会員に、私は何を言えるでしょうか。「イエスを人々に、特に、すべてを失った人々にもたらすとき、私たちは本当に自分の中にイエスを見いだすのだ。」

コンゴ民主共和国出身、ウガンダの宣教師 **ロジェ・ムバヨ神父**



**バルトロメオ・ブランコ・マルケス**  
(1914 - 1936)、信徒、サレジオ  
ニ・コオペラトリー会員。バルトロ

メオはコルドバ州 (スペイン) のボソブランコに生まれた。1930年に地元のサレジオ高校に入学。1932年にカトリック・アクション青年会の事務局長に選ばれる。職業社会学院で専門課程を修了した後、カトリック労働組合の代表として、教会の社会教説の促進に全面的に献身した。バルトロメオは信仰を实践するキリスト者として、深い内的生活の真剣なあかしを生き、社会的使徒職に惜しみなく打ち込んだ。政治的と見られる活動においてさえ、福音的価値のために闘うキリスト者であった。1936年8月18日、カトリックのリーダーとして逮捕されたバルトロメオは、深い信心をもって死に備えた。穏やかさと快活さを決して失わなかった。皆にとって手本であった。9月29日に判決を受け、10月2日、「王であるキリスト、万歳!」と叫びながら、銃殺刑に処され、殉教した。

### サレジオの宣教の聖性のあかし

サレジオ会列聖申請人 **ピエルルイジ・カメローニ神父**

## オセアニアの 新たな宣教の前線のために

サレジオのカリスマがさらに多くの島々と出会い、  
ドン・ボスコが共にいてくれるのを今も待つ若者たちに、  
仕えることができますように。

オセアニアで、サレジオ会は6か国に存在していますが、バヌアツ、トンガ、  
バゴバゴから新たな要請が来ています。主が必要な人材をくださり、  
新たな宣教地へのなくてはならない情熱をくださるよう、祈ります。



サレジオ会の宣教の意向

